

トピックス 農村環境保全について検討を進めています

農林水産省では、地球温暖化対策も含めた環境問題解決への気運の高まりを背景に、今後の農業農村整備の環境との調和への配慮の位置づけをより明確にするため、「農村環境の保全に関する研究会」を設置し、有識者を交えて農村環境保全を推進する必要性や理念について検討を行いました。この中では、里地・里山といった農村環境の保全をきっかけとして、潜在している農村の総合的な機能が十分に発揮されることにより、豊かで質の高い農村が実現されるものとしています。

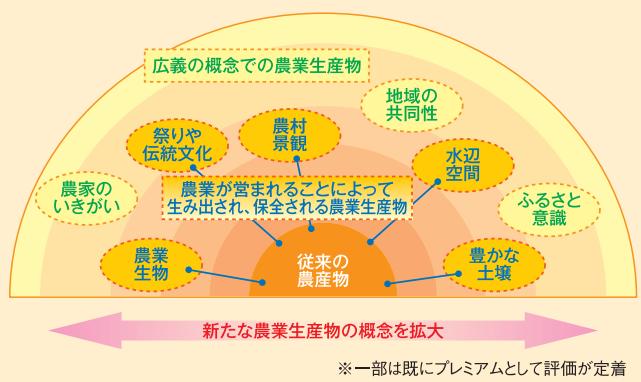
農村の総合的な機能

農地・農業用水等は、農業の営みを通じた人の働きかけによって、農産物生産のための機能以外にも、国土保全、生物多様性、水・物質循環、地域用水などの多面的な機能を発揮しています。



新たな農業生産物の概念の拡大

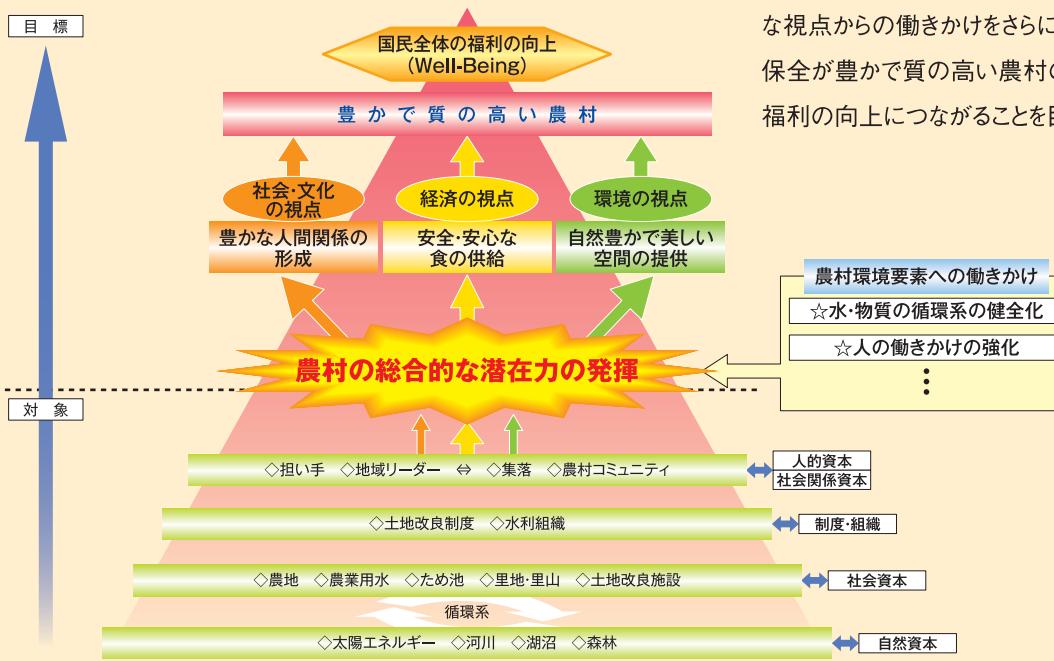
これまで十分に市場で取引されてこなかった農業の営みが提供している環境・社会的評価を、従来の農業生産物の概念に内部化し、新たな農業生産物の概念として位置づけることが必要です。



農村環境保全の目標と対象

農業農村整備は、農地、水に関する社会資本や、これらと一
体的な自然資本、及び農業、農村に関わる人々と農村コミュニ

ティまで、農村環境の要素を幅広く対象としています。今後は、農村環境の要素に対して、経済、環境、社会といった様々な視点からの働きかけをさらに充実させ、農村環境保全が豊かで質の高い農村の実現と国民全体の福利の向上につながることを目指します。



資料:農林水産省「農村環境の保全に関する研究会」中間とりまとめ

トピックス 農地・水・環境保全向上対策が進められています

農地・農業用水等の資源は、食料の安定供給や多面的機能の発揮の基盤となる「社会共通資本」です。しかしながら、農村では、過疎化、高齢化、混住化などのため農業の営みを支えてきた農村集落での共同活動の維持が困難となってきています。平成19年度から多様な主体が参画する活動に対して支援する「農地・水・環境保全向上対策」が始まっています。

農地・水・環境保全向上対策の概要

共同活動への支援



営農活動への支援

- 左記の共同活動に加えて、
- 地域全体の農業者により環境負荷低減に向けた取組を行った上で、
 - 地域でまとめて化学肥料や化学合成農薬を5割以上低減するなどの先進的な取組を行った場合、取組農家に分配可能な交付金を交付。



促進費

- 活動の質をさらにステップアップさせる取組に対し、促進費を交付。



資料:農林水産省資料をもとに作成

「農地・水・環境保全向上対策」では、資源の適切な保全の実効性を確実に担保し、かつ、地域社会全体への貢献や農村振興の観点から見た施設の長寿命化・農村の自然環境や景観の保全といった「効果の高い取組」を誘導します。

市町村数	活動組織数	取組面積(ha)	下段はシェア(%)		
			田	畠	草地
1,252	17,144	1,162,841	905,148	222,688	35,006
		100%	77.8%	19.2%	3.0%

遊休農地の保全管理を地域ぐるみで実施

岡山県美咲町境地区は、小さなため池と天水などに依存する棚田での稲作が行われてきましたが、農業者の高齢化や減少により耕作放棄地が増加していました。そこで、地域の景観形成・生態系保全を目的として自治会等が主体となり、農地・水・環境保全向上対策の取組を始めました。地域ぐるみで美しい村づくりを推進するため、遊休農地を利用して紅蕎麦の作付けに取組み、県内都市部及び県外から多くの見物者が訪れるようになりました。



取組の進展による農地集約

農地・農業用水等の保全管理を行う活動組織では活動計画等について多くの話し合いがもたれ、これを契機に、新たな担い手の創出や農業法人による大規模経営、兼業農家や高齢農家を含めた農家の協力による集落営農の積極的な導入など農地の集約化への展開も期待されます。

